

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2372200154
法人名	社会福祉法人 来光会
事業所名	グループホーム 瀬部
訪問調査日	平成20年1月23日
評価確定日	平成20年3月3日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2372200154
法人名	社会福祉法人 来光会
事業所名	グループホーム 瀬部
所在地	一宮市瀬部字地蔵55番地1 (電話) 0586-51-6556

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成20年1月23日	評価確定日	平成20年3月3日

## 【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.6人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	1階建ての 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要(平成20年1月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86 歳	最低 77 歳	最高 95 歳		
協力医療機関名	尾洲病院・大雄会総合病院・森歯科医院				

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

畑地が広がるのどかな場所に平屋建てのホームは位置している。本人好みの手作りのれんが各居室の入り口に掛けてあり、それぞれの個性がうかがえる。広い玄関を入ると台所の大きくなりぬき窓から居間の様子が見える構造になっている。環境に優しい対策を生活のあらゆる方向から考え実践に努力を惜しまず、入居者と職員と区別するのではなく、互いにできること、できないことを補い合い、手に手をとる生活が営まれている。専門性を高めることに意識が高く研修に参加する機会を持ち、計画性のある個々に合った指導がある。法人内の事業所と交流を持ち、QC活動も活発に取り組み相乗効果をあげている。外出の機会を多く取り入れ、入居者が地域へ出る思いを叶えられる、自主的役割がある生活の中に本当の笑顔が生まれると実感できる。一宮の七夕祭りにはホーム全員で制作した作品を出展し毎年受賞している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善点について全職員で話し合い、役割を分担し取り組んだ。ホーム機能の地域への還元については、ボランティアの受け入れ、学校との交流に取り組み、誰でも立ち寄りやすいホームの工夫として、日替わりメッセージの黒板を玄関前に出すなどしている。他事業所とは定期的に勉強会をもっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、資料を通して管理者から職員に説明があり、意義の理解をしている。評価項目が多く時間を要したが一人ひとりが真剣に取り組んだ。日々の業務を改めて気付いたり、見直したりすることで意識の向上になっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2カ月に1回開催しており、参加への声かけに努力を惜しまない。ホームの状況、行事前後の報告と案内、福祉QC活動の取り組み、各方面からの意見や助言の機会として運営推進会議を活かしている。外部評価の改善点と職員全員で話し合った対応策を報告する場としても活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族からは運営推進会議で意見を出してもらっている。面会時に職員側からコミュニケーションを図り不安や苦情を言いやすい雰囲気づくりを心がけている。ホームの敬老会や設立記念日に家族を招いて、家族間で交流を持ち意見や不満、苦情を表せる機会を設けている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内の祭り、小学校の運動会に参加をしている。畑作業で顔見知りになり、近所づきあいが始まり、ボランティアの受け入れも行なっている。玄関前に日替わりメッセージを掲示し立ち寄りやすい工夫をしている。民生委員を通じてお宮掃除の参加を検討している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者、家族、地域の人に愛され、信頼される理念として「信愛」を掲げている。笑顔があり、にぎやかで家庭的なホームが支援の方法として職員間で大切に育てている。		職員全員で「信愛」を大切に取り組み育んでいる。家庭的なホームを大切にしながら地域の中でホームのできる役割や地域住民と交流しながら暮らしを支えるとは何かの理念について話し合う機会を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に1回の会議で話し合ったり、6カ月に1度テスト形式で理念や、知識、心構えなどを確認している。日々の指導は注意にならないよう助言をしたり、日報を活用して職員が考えることを大切に取組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して夏祭りに参加したり、小学校の運動会に招待されるなどの交流を図っている。日常ではホームの玄関前に日替わりメッセージを黒板で掲示して、近所の人々が立ち寄りやすい工夫をしている。畑作業で近所づきあいが始まり、ボランティアの受け入れも行なっている。民生委員の方からお宮掃除への参加に声をかけていただき、ホームとして参加する方向で検討している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者より評価の意義が説明された。「項目が多くて時間を要したが工夫することを学び、日々の業務を改めて気付いたり、見直したりと意識向上になった」という職員の声もある。前年度の改善点について会議で話し合い、分担するなど全職員で取り組んだ。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2カ月に1回開催している。入居者、家族、小学校の校長、民生委員、福祉課職員、ホームからは施設長、管理者、介護職員の参加がある。運営推進会議は、前回会議の内容のまとめと改善についてや福祉QC活動など参加者の意見が活発に出され、サービスの向上を目指している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議で市の立場から評価、助言、指導がある。施設長が市へ出向きホームの報告をしたり、相談を常に行なっている。一宮市内のグループホームとの連携を強め、市と共にグループホームの質を高める取り組みを実施している。</p>		
<b>4. 理念を实践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎日の暮らしぶりについては連絡帳を活用して詳しく記録されている。個人カルテにも記録があり、毎月の訪問時に報告している。特別なことや緊急時は電話を利用した報告もある。金銭についても収支をおこづかい帳に記録し、毎月家族に確認をお願いしている。玄関に手作りボードを用意して名前と顔写真を掲示している。家族のみならず訪問者に分かりやすく親切である。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議での意見はもとより、入居者、家族、地域の方が思いを言える雰囲気づくりを大切に考えている。第三者機関の案内を玄関に掲示して意見を出してもらえるようにしている。面会時に職員側からコミュニケーションを図ったり、ホームの敬老会や設立記念日に招待し家族間で交流を持ち、意見や不満、苦情を表せる機会を設けている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員異動はほとんどなかったが、今後の状況変化に対応できる対策としては、新人研修期間を1カ月と定め、日勤、夜勤の勤務日数の調整、業務習熟度、指導職員との組み合わせなどを考慮している。人的環境のダメージを最小限に抑え、馴染みの関係が築けるように移行期間を十分にとるなど工夫している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は3カ月毎に職員と個人面談を実施している。介護の姿勢、希望を聞き取り個々に合った研修や資格取得へのアドバイスをしている。法人内の研修、外部研修を問わず勤務扱いで受けることができる。自主的に受講できるよう研修案内を掲示している。また、職員間で偏らない勤務体制にも配慮している。業務目標を持ってスキルアップも目指している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の施設部会に任意で入会している。たくさんのグループホームが集まる場、他種事業所が集まる場として交流の機会にしている。施設部会で開催される勉強会が年間計画で決まっており、テーマを選んで職員が参加している。法人内の事業所と話し合いや勉強会の機会があり、相乗効果を図っている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学、体験を希望の形で受け入れが可能である。家族見学、本人面談が一般的な流れであるが、入院中で来訪できない場合でも、管理者が病院へ面会に行くこともある。1週間の体験入居ができ、他の入居者にも影響がないよう考慮しながら支援している。ティータイムや行事に参加し、馴染みの関係が築けるように日頃から工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	のれん、ボード、牛乳パックの再利用、畑仕事で種まきの方法、食事の作法でやかんの持ち方、料理など生活の中で入居者と職員が一緒に作り、入居者から教えてもらうことも多く、職員は楽しみにしている。お互いにできること、できないことを補いながらの関係が築かれている。助けられることに感謝し、委ねられることに自信を持ち、共に支え合う生活を営んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎日のスケジュールは決まっていないが自然と一人ひとりのリズムができています。日々の関わりの中で思いや希望がうかがえたり、家族の意見を聞いたりしている。個別ケアとして担当職員が月1～2回外出の機会を設けている。意向の把握が困難な場合は生活歴や趣味、得意なことなどを考慮して検討している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一人ひとりの思いや意向、家族の希望を取り入れた介護計画を作成している。職員一人ひとりが日頃把握したことを記録に残している。できること、したいと思う自主性を壊さない支援を担当者会議で話し合っている。成功例や失敗例の意見交換をして、介護計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3か月に1度、職員にアセスメントシートを配布した後に状態を把握し見直している。毎日、できる、できないシートと生活記録表を記入し、担当職員が週に1度アセスメントを行なっている。そして月に1度ケアマネジャー、管理者、担当職員で担当者会議を行い、常に状態の変化をチェックしている。変化や家族の要望があればその都度、見直しを行なっている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>個別支援として月に1～2回、本人の行きたい所（買い物、ペットショップなど）に職員とマンツーマンで外出している。地域の人がホームに親しみを持ち、いつでも気楽に立ち寄ってもらいたいと、ホームの入り口に大きな黒板を置き、毎日一言書いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月に2回協力医の往診があり、健康管理を行なっている。また、入居前からのかかりつけ医での受診もでき、体調に変化がある時は、医師に書面で報告し助言を受けている。受診は原則として家族の同行をお願いしている。急変した場合は夜間時の対応については契約時に説明し同意を得ている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に終末期における対応の説明を行い、確認書で同意を得ている。看取りの研修に参加するなど、ホームとして終末期ケアを行なっていきたいとの思いはあるが、現時点では医師、看護師の確保が難しい。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日々の関わりにおいて、職員は言葉遣いに気をつけ、入居者の誇りやプライバシーを損ねないように心がけている。個人情報に関する書類などは、事務所からの持ち出しを禁止し、鍵のかかる棚に保管している。また、職員がメモを取る時は、インシタルで書くよう気をつけている。カルテの開示、居室への入室、写真掲載について同意書が交わされている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の基本的な流れはあるが、時間の枠に囚われず、本人の意志を尊重して、毎日やることを決め、できるだけ個別性のある支援を行なっている。日課や行事など、色々参加する機会があり、一人ひとりの思いに配慮しながら支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者に好みを聞きながら職員が立てている。食事の支度や食器洗いなど職員と一緒にいき、下膳は各自で行なっている。訪問時には、入居者がリンゴをいちょう切りにしている姿が見られた。音楽を聴きながら、楽しく会話して食事ができるような雰囲気づくりを大切にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日15時頃から、本人の意志を確認し入浴している。足拭きマットは衛生面から一人ひとり交換している。寛いだ気分で入浴してもらえよう、柚子、フルーツの皮、入浴剤などを入れたり、仲の良い入居者同士で時々入ることもある。体重測定を毎週土曜日に行い健康管理に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日、入居者の得意なことやできることを担当職員と話し合い決め、入居者に行ってもらい達成感を味わってもらえるよう支援している。居室の掃除は各自で行い、洗濯物干しやたたみ、調理など個々の能力に合った役割をもっている。食事の作法、裁縫、畑仕事など入居者の経験や知恵を発揮する場面もつくっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、車で食材を買いに出かけたり、天気の良い日は畑や近所を散歩して、なるべく外に出かけるよう支援している。一人ひとりの希望に応じて、月に1~2回個別支援も行なっている。また、月に4回全員の外出行事があるが、体調や本人の意志を尊重して支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は8時30分から17時までは施錠しておらず、いつでも自由に入出入りすることができる。入居者が出て行く気配を職員が見落とさないよう、全員の様子をいつでも見守るよう心がけている。		近所の方とは畑で作業している時や散歩の時に挨拶をしているが、地域の中で理解を求め、見守りや声かけ、連絡をしてもらえるよう働きかけることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成して、年2回、火災（昼間、夜間）を想定した避難訓練を行なっている。家族向けに災害時マニュアルを作成し配布した。災害に備えての食料、飲料水、備品などは屋内と屋外の2箇所に準備している。地震対策として、食器棚、冷蔵庫につっかえ棒を設置するなど転倒防止に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの1日の食事摂取量を生活記録に記入し、職員が情報を共有している。食べたのに食べていないと訴えのある入居者には、少量ずつ提供し、食べ過ぎないように工夫したり、苦手な物は少量にして別の物を提供するなどの支援をしている。法人内の栄養士に2週間分の献立を毎月見てもらい、専門的なアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム入り口から室内はバリアフリーであり、中央に台所と広い居間がある。廊下にはダンボールに布を貼って作ったボードには、個々の写真や入居者が習字で描いた季節の作品（雪だるま、かまくら）などが飾られていた。居間には入居者と職員が一緒に作ったモビールや牛乳パックの大きな椅子があり、手作りの温かさを感じる空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には自分の好みの生地で作ったのれんが掛けてあり、入居者が居室を間違えないように、ポスターや子どもの写真を居室のドアに貼っている部屋もある。室内には大きな物入れが設置され、整理整頓がしやすくなっている。使い慣れた椅子、テーブル、ベッド、家族の写真などを置き、壁に作品や日課表を飾り、居心地よく暮らせるよう工夫している。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。